

Let's talk:

嶋津幸樹の世界と繋がる IELTSブログ



英検 公益財団法人
日本英語検定協会
Eiken Foundation of Japan

BRITISH COUNCIL IELTS
Official Test Centre

第8回「世界基準の英語試験 IELTS との別れ」

嶋津幸樹

全8回でお届けする連載「世界と繋がる IELTS」、ここまでは IELTS の魅力や実体験に基づいた勉強法を数多く紹介してきましたが、最終回である今回は IELTS の先にある世界について赤裸々にお伝えしていきます。この記事を読んだ皆様が IELTS 対策に終止符を打ち、本質的な学びを通して、理想の自分と環境を手に入れる第一歩を踏み出して頂ければと願っています。

これまで公に語ってきませんでした。ある衝撃的な体験を告白します。ちょうど大学院受験の準備をしていた10年前のことです。BBC による調査で、ある英語試験の不正が見つかり、イギリスを目指す多くの受験者が大混乱に陥りました。もちろん僕もそのうちの一人であり、当時は日本国内の IELTS 試験会場が全て満席になってしまい、やむを得ず海外の試験会場を探し、結果的に香港で IELTS を受験することになったのです。

僕の脳内は一刻も早く IELTS のスコアを上げなければという焦燥感で埋め尽くされました。あらゆる手段を用いて過去に出題された問題をかき集め、世の中の IELTS 関連教材を闇雲に読破しました。日常生活から IELTS に関係のないことは全て遮断し、IELTS に出題される可能性のあるものだけを頭の中に叩き込むような、まさに IELTS 完全対策の生活です。半年間の IELTS 漬けの生活を経て、何とか全技能 7.0 の必要条件を満たし、意気揚々とオックスフォードに向かったわけです。が、そこで待ち受けていたのは想像を絶する世界でした。

結論から申し上げますと、IELTS で鍛えた英語だけでは全く通用しなかったということです。詳細は拙著「アジア No.1 英語教師の超勉強法」に記してありますが、ご存知の通り、オックスフォードには世界中から優秀かつ魅力的な人々が集まり、とめどなく英語で議論が展開されます。ときにフランス語や中国語、スペイン語が共通語になるという体験もしました。彼らにとって世界共通語である英語はできて当たり前、IELTS8.0 や 8.5 も当たり前の世界です。

「英語試験のスコア」のみを誇りに生きてきた自分にとって、何もかもが屈辱的な体験となりました。意見を求められても対等に議論することはできず、同じ空間にいるのに幽霊のような存在になってしまった経験もあります。現地の文化や歴史、政治や宗教など、あらゆる話題に理解が及ばず、オックスフォードでの僕はまごうことなき「非常識人」でした。立食パーティーでは自己紹介もままならず、友達ができず一人立ちすくお僕は、圧倒的劣等感に苛まれる日々を過ごすことになったのです。そこで初めて IELTS に加えて求められるスキルについて思い知らされたのです。

彼らにあって、自分にないものは何なのだろう？そう考えていくうちに、「英語 4 技能」には含まれていないスキルに気づくことになります。僕はそれらを、英語の4技能(リスニング・リーディング・スピーキング・ライティング)に3つのスキルを加えた「グローバル 7 技能」として包括的に定義し、日本でも世界でも英語を使って活躍するための学びの最適解に辿り着きました。この連載を終えるにあたり、これからの予測不可能な時代に求められるであろう「グローバル 7 技能」について、IELTS の英語4技能に加えて重要だと信じている3つの技能「対自分力」「対他者力」「対社会力」についてお話しします。

「対自分力」とは自分自身を客観的に把握し、目標達成に向かう力です。自分の好き嫌い・得意不得意を熟知し、自分のことを深く理解し、目標設定して振り返りができることは何事においても重要です。「対他者力」とは背景の異なる人々と議論・協働を通して問題を解決する力です。相手の文化や多様性を受容し、相性の良い仲間を見つけ課題解決すること、利他的行動を繰り返すことは AI が真似できない能力です。「対社会力」は社会の姿を的確に捉え、自分で考え表明する力です。つまり世の中の知識・教養・常識を批判的に捉え、自分の意見や立場をはっきりと述べることを意味します。

「グローバル 7 技能」全てが相互補完的に支え合い機能することで、言語だけでなく未来を見据えて明確なビジョンを持ち、他者との意味のあるインタラクションが生まれ、社会貢献度の高い活動に繋がっていくと信じています。IELTS は英語力を測定する素晴らしい英語 4 技能試験ですが、世界基準の IELTS に対する愛を語る僕の本心はグローバルパスポート取得の先にある世界をイメージしながら、本質的な学びを追求していただきたいということです。

IELTS はあくまで人生の目標達成までの通過点に過ぎません。そして IELTS は小手先のテクニックや過去問の対策を繰り返すための試験ではなく、本質的な英語力が評価される試験です。意味のある学びを通して英語力を身につければ対策をせずにも 7.0 を狙うことができます。これまで IELTS 卒業後の未来を想定せず、IELTS のスコアを取得した後に何がしたいのか分からずに途方に暮れる人々を数多く見てきました。日本でもいよいよ盛り上がりを見せてきた今だからこそ、IELTS に別れを告げ、本質的な学びを追求し、人生の究極の目標に向かって突き進んでいきましょう。

<https://www.bbc.com/news/uk-26024375>

[IELTS 編集部トップに戻る](#)